

生物多様性条約COP10と谷津田の保全

高山 邦明（千葉市緑区在住）

昨年の10月、名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されたことは多くの皆さんがよくご存じのことと思います。世界179カ国から国際機関、先住民代表、市民団体など13,000人以上が集まったこの会議、テレビや新聞でも大きく取り上げられたので「生物多様性」という言葉が広く知れ渡ることになりました。ただ、マスコミで報道されたのは遺伝子資源の利用に関する話題がほとんどで、そのための会議だったと思っている方が多いのではないのでしょうか？ 遺伝子資源の利用問題はとても大切で、たとえば難病の治療薬の成分がジャングルの奥から見つかった場合、薬を開発・販売する先進国とジャングルがある開発途上国とで得られる利益を公平に分配しようという方針が、「名古屋議定書」という形で決まったことは大きな前進だったと思います。しかし、この問題は会議のごく一部でしかなく、他に大事なことがたくさん決まっており、その中には私たちが谷津田の保全を進めていく上で知っておく必要がある決議もありますので、ここでご紹介したいと思います。

会議では条約に関わる今後の行動の指針となる「**新戦略計画**」が定められました。計画ではまず2050年までを見据えた中長期目標「**ビジョン**（展望）」を据え、それに向けて2020年までに達成すべき短期目標「**ミッション**（使命）」を決めています。

「自然と共生する」と銘打ったビジョンは次のとおりです（翻訳は環境省のホームページより）。

ビジョン「自然と共生する」

2050年までに、生物多様性が評価され、保全され、回復され、そして賢明に利用され、それによって生態系サービスが保持され、健全な地球が維持され、全ての人々に不可欠な恩恵が与えられる

そのために、私たちはこれから10年の間に次のミッションを担うことを宣言しました。

使 命

生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する。

これは、2020年までに、回復力のある生態系と、その提供する基本的なサービスが継続されることが確保され、それによって地球の生命の多様性が確保され、人類の福利と貧困解消に貢献するためである。

これを確保するため、生物多様性への圧力が軽減され、生態系が回復され、生物資源が持続可能に利用され、遺伝資源の利用から生ずる利益が公正かつ衡平に配分され、適切な資金資源が提供され、能力が促進され、生物多様性の課題と価値が主流化され、適切な政策が効果的に実施され、意思決定が予防的アプローチと健全な科学に基づく。

この使命を果たすために5つの戦略目標が掲げられ、さらに20の個別目標が決められました。

戦略目標

- A 各政府と各社会において**生物多様性を主流化**することにより、**生物多様性の損失の根本原因に対処**する：個別目標 1～4
- B **生物多様性への直接的な圧力を減少**させ、**持続可能な利用を促進**する：個別目標 5～10
- C 生態系、種及び遺伝子の多様性を守ることににより、**生物多様性の状況を改善**する：個別目標 11～13
- D 生物多様性及び生態系サービスから得られる**全ての人のための恩恵を強化**する：個別目標 14～16
- E **参加型計画立案、知識管理と能力開発**を通じて実施を強化する：個別目標 17～20

これから2020年までの10年間のこの目標は「愛知ターゲット」と呼ばれ、個別目標に数値が定められるなど実効性を意識した中身になっていることが評価されています。個別目標のいくつかについて私たちの谷津田保全活動との関わりを考えていました。

目標1「遅くとも2020年までに、生物多様性の価値と、それを保全し持続可能に利用するために可

能な行動を、人々が認識する。」：下大和田と小山で行っている自然観察会や YPP(谷津田プレーランドプロジェクト)の大きな目的の一つは多くの方に谷津の自然の素晴らしさ、かけがえのなさを伝えることです。そして、谷津の自然を保全するには昔ながらの方法で米づくりを続けることが必要なことを訴えてきました。昨年のイベント参加者はのべ 1,000 人を超えますが、谷津田の生物多様性の価値と保全に必要な行動を皆さんに認識していただくのにこのペース、方法で良いのか検討が必要でしょう。

目標 7「2020 年までに、農業、養殖業、林業が行われる地域が、生物多様性の保全を確保するよう持続的に管理される。」：谷津田の生物多様性の保全には米づくりが継続されることが必要です。しかし、泥深い谷津田は大型機械を使った耕作が難しいことから放棄される田んぼが増えており、維持されている谷津田を担っている農家の方は高齢の方が中心です。下大和田の過去 10 年を見ると、YPP の田んぼ周辺で 7 人の方が米づくりをされていたが、5 人の方が稲作をお止め、そのうちの 2 カ所を YPP やちば環境情報センターの有志で継承したのですが、残り 3 カ所は放棄田となり、ニホンアカガエルやメダカなどの生きものが姿を消しました。私たちが関わっている谷津田ですらこのような状況ですから、今後 10 年を考えると何か適切な方法を工夫しないと谷津の生物多様性の保全は現状維持ですら厳しい状況となってしまいます。これは目標 12 の絶滅危惧種の減少防止にも関わる問題です。

目標 11「・・・特に生物多様性と生態系サービスに特別に重要な地域が、効果的、衡平に管理され、かつ生態学的に代表的な良く連結された保護地域システムやその他の効果的な地域をベースとする手段を通じて保全され・・・」：千葉の谷津田といっても様々であり、その中で下大和田や小山は高い生物多様性が維持され、絶滅危惧種など貴重な生きものが暮らしています。すべての谷津の自然を保全することが理想的ですが、これからの 10 年を考えるとそれが現実的でない以上、生物多様性の観点で重要な地域を把握し、効率的な保全策を考える必要があると思われます。「良く連結された」という部分は保全場所の孤立化を懸念しており、どのように保全すべきか科学的な検討も求められそうです。下大和田や小山に関わっている私たちは行政や大学の研究者の方々との一層の連携が必要となりそうです。

目標 18「2020 年までに、生物多様性とその慣習的な持続可能な利用に関連して、先住民と地域社会の伝統的知識、工夫、慣行が、国内法と関連する国際的義務に従って尊重され・・・」：生態系にやさしい伝統的な自然の利用方法の重要性を説いています。谷津田においても昔ながらの米づくりが生物多様性維持に最も適していることは明らかですが、一方で稲作の効率性という意味では現代農法に劣後する点も否めないで、そこをどのように克服するのか考える必要があります。

COP10 の決議の中には農業に関わる生物多様性についての決議もあります(決議 34)。その中でラムサール条約(特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)の第 10 回締約国会議で採択された「**水田決議**」を生物多様性条約の方でも採択することが決められました。何世紀にもわたり水田が広大な開けた水面を提供し、稲作に関連した高い生物多様性が維持されてきたことが決議文の中に記述されています。ラムサール条約の水田決議の主文の要点は次のとおりです。

締約国に対し

- ・ 水田の生物相及び米作社会の文化に関する調査を進めることを奨励。
- ・ ラムサール条約湿地や FAO の「地球的重要農業遺産システムプログラム」への登録を通じて水田に対する認識を高め、持続可能な農法と水管理についての情報交換をすることを呼びかけ。
- ・ 生物多様性や生態系サービスを高め、農家等の健康及び福利の改善、水鳥個体群の保全にも貢献するような農法や水管理を特定し、推進することを。
- ・ 農法や水管理が河川流域の上下流に及ぼす影響を考慮したものとなるよう、COP10 で採択された「湿地と河川流域管理の指針」を適切に参照することを要請。

科学技術検討委員会に対し

- ・ 水田の役割についてテクニカルレポートを準備し、水田の計画と管理方法に関する既存の指針と情報を他の関連機関(FAO、国際水管理研究所、国際稲研究所等)と連携して点検し、普及し、交換することを要請。

このように生物多様性条約 COP10 では実にたくさんの決議が行われ、しかも今後 10 年を見据えてかなり高い目標が設定されました。谷津田の保全に関わっている立場でこの決議を見ると、目標の厳しさを感じます。千葉の生物多様性を考える上で、谷津田は極めて重要な環境であり、市そして県のレベルで一連の決議、愛知ターゲットをしっかりと受け止め、地域としてどのように取り組んでいくのか、具体的な計画を作っていることが必要です。決議文は日本語で読んでなかなかわかりにくい内容ですが、ぜひ皆さんも一度目を通して、私たちとして何をすべきかについて一緒に考えていきましょう。

■生物多様性条約 COP10 に関する文章は下記で見られます。

>結果の概要：http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=16459&hou_id=13092

>新戦略計画：http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=16471&hou_id=13104

>条約の公式英語ページ：<http://www.cbd.int/>



里山たんけんレポート

第133回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2011年2月6日(日) 晴れ

暖かい好天に恵まれ、普段は立ち入れない谷津の最下流部まで巡ることにしました。

スタート直前にはノスリの飛翔がみられました。アオジ他声はそこここから聞こえてくるのですが姿はなかなか見せてくれません。ハンターも入っていて犬笛が聞こえます。猛禽! の声。お腹が真っ白でオオタカでした。葉が落ちた木に鳥の巣がありました。大きさからヒヨドリではないかと思われました。

道々オオカマキリの卵のうがたくさんありましたが、みな高い位置に作られています。卵のうが高い年は雪が積もると言われたりしますが、確かに全国的には豪雪の年になっています。

最下流部へ出てせっかく来たのだからと、流れに沿って田んぼの縁を歩き鹿島川にそそぐ本流まで出ました。その3面張りの排水路からクサシギが2羽飛び立ちました。モズ、ツグミも見られました。

折り返し、谷津の南側を戻る途中でベニマシコに出会いました。赤い雄でした。餌を食べるのに忙しく人を意に介しません。スコープで長い時間観察することが出来ました。今日の最大の収穫でした。

観察会中出現した鳥17種、観察会前後に出現した鳥4種でした。

(参加者 大人13名、高校生5名、子ども3名; 報告: 網代春男)

第118回 下大和田 YPP「アカガエルの産卵調査」

2011年2月19日(土) くもり

年明けから厳しい寒さが続いてきたため、今年の二ホンアカガエルの産卵開始は例年より少し遅れて2月6日に始まりました。それから2週間、どれくらいの産卵があったのかみんなで田んぼを巡り、卵塊数をかぞえました。不思議なもので1枚の田んぼでもお気に入りの場所があるらしく、かたまって産み付けられています。くっつき合っている卵塊もあるので時に棒でそっと動かしてひとつか2つか確かめながら数えました。その数はYPPの田んぼだけでも120近くになり、今年もしっかりと産卵してくれたことがわかり安心しました。



調査風景 (撮影: 田中正彦)

卵を覆うゼリー状の部分の透明感があって全体に張りがあるタペ産み付けられたばかりのような卵塊がある一方で、一番最初に確認された卵はもうオタマジャクシの形になっていて、中には卵塊を離れて泥の上で横たわっている孵化のはじまった卵塊もありました。これからどんどん大きく成長してくれることでしょう。

(参加者: 大人13名、小学生3名、幼児4名; 報告: 高山邦明)

第63回 小山町 YPP「自然観察」

2010年2月13日(日) 晴れ

穏やかな冬晴れの中、野鳥を中心に冬の谷津の自然観察をしました。静かな谷津ですが耳をすますとあちこちから鳥たちの声が聞こえてきます。アオジのチッチ、ウグイスのジジッ、コゲラのギーッ、メジロのチーッ、とさえずりと違ってひと声だけの地鳴きを聞き分けるのはとても難しいのですが、何度も聞いていると少しずつわかるようになってきます。メスのジョウビタキはすぐ目の前に来てくれて私たちが気にすることなく地面に降りて一生懸命餌を探していました。双眼鏡で見ると白い縁取りのある目がとてもかわいらしい鳥です。



「ほら、あそこ! ノスリが飛んでる! 2羽いるよ。」(撮影: 榎本一雄)

谷津田を見てから台地にも上がってみると上空をノスリが悠々と飛んでいました。しかもよく見ると2羽もいます。開けた地面にはあちこちにモグラ塚(モグラが穴を掘った土を盛り上げたもの)があることから、上空からモグラなどの生きものを探しているのでしょう。視力の良さには驚きです。

久しぶりにみんなでゆっくりと谷津の自然を堪能しました。

(参加者: 大人5名、小中学生3名 報告: 高山邦明)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 2月13日 上空をノスリ2羽が飛翔(高山)。
- 2月15日 トウキョウサンショウウオの卵塊を確認(齊藤)。
- 2月22日 ニホンアカガエルの卵塊を確認。2/20にはなかったとのことで、この間に最初の産卵があった模様。モズのカップルを見かける(高山)。
- 2月26日 ジョウビタキがルリビタキを追い払うのを目撃(高山)。

下大和田

- 2月7日 ニホンアカガエルの卵塊を確認。2/6にはなかったことから6日の晩が最初の産卵だった(網代)。
- 2月19日 3羽のカケスが同時にサンバの鳴きまねをしていた。また、アカゲラの鳴きまねも。モズもホオジロなどのさえずりをまねしていた(高山)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第119回 下大和田 YPP「野草を食べる会」

春恒例の野草を食べる会です。みんなで谷津を散策して野草を摘み、天ぷらやおひたしにさせていただきます。ちょっとほろ苦い春の味覚を楽しみましょう。

- 日時: 2011年3月19日(土) 10:00~14:00 小雨決行
- 場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)
- 集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)
- 持ち物: 弁当、お椀・お皿・おはし、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物。
- 参加費: 小学生以上500円(食材費を含む特別料金です)
- 主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第135回 下大和田 4月の谷津田観察会とごみ拾い

春番番、フデリンドウ、アマナなどの草々、コブシ、サクラなど木々の花の時期です。虫も活動的になります。動植物を愛でながら谷津を巡りましょう。

- 日時: 2011年4月3日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行
- 場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)
- 集合: 下大和田 YPP に同じ
- 持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など
- 参加費: 100円(小学生以上、資料代など)
- 主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

▼第64回 小山町 YPP「学校田んぼづくり」

休耕田を開墾して地元小学校が米づくりをする田んぼを作ります。田んぼづくりはなかなかできない経験です。休耕田が田んぼに復活してどんな生きものがやってくるのか楽しみです。小さなお子さんでも参加できますのでぜひご家族でいらしてください。

- 日時: 2011年3月13日(日) 10:00~12:30 *小雨決行
- 場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)
- 持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、もしあれば双眼鏡など。
- 参加費: 100円(小学生以上、資料代など)
- 主催: ちば環境情報センター

編集後記 寒さが厳しかった今年の冬ですが、2月に入って冬型の気圧配置が崩れるようになり、下大和田でも小山でもニホンアカガエルの産卵が行われました。スタートはちょっと遅れたようですが、ほぼ例年並みの産卵数になるようです。下大和田ではすでにオタマジャクシの孵化が始まっています。そして、3月。二十四節気の啓蟄(今年は3月6日)を過ぎると春が急速に進みます。小鳥たちのさえずり、木々の芽吹き、季節の移ろいに目が離せない日々のはじまりです。(高山 邦明)